



編集メモ

48歳で自動二輪免許を取得した。学生であった1980年代はバイクブームであり、ヤマハRZやスズキGSXR250Γなど名車が多かった。学生時代は自動車免許に付随した原付免許で原付のRZ50で遊んだりしていたが、DT50も乗ってみたいくらいに思っていたら卒業となり、二輪とは遠ざかっていた。

50歳を前にして何か始めたくなり、まず乗馬にトライした。毎月、家から車で15分ほどのところにある乗馬クラブに通った。周りは有閑マダムと小学生ばかりであった。並歩、速歩を習得して駆歩を始めた頃にやめた。馬と気が合わないことが多く、嫌気がさしたのである。馬はおとなしいものもいれば、いじわるなものもある。乗馬クラブの馬は乗り手の技量を見ていじわるする奴もいたのである。

ちょうどその頃、ネットでDT50が近くの店で10数万円ほどで売られていることに気付く、即買いした。20数年ぶりにバイクにまたがると、乗馬以上に楽しいのである。すぐに自動車学校に通い、自動二輪免許を取った。最初買ったのはスズキグラディウス400であった。バイクに乗ってワインディングを走っていると脳が喜んでいるのがわかるのである。純粋に楽しい。例えて言えば、スキーでターンを繰り返して斜面を降りてくる快感をズーッと疲れずに続けられるという感覚である。

運転に不慣れなうちはツーリング中に大分怖い思いもしたが、今はサーキットにも通っているので危機回避能力が上達し、比較的安全に乗れていると思う。筆者が本拠地としているモビリティリゾートもてぎはMotoGPも開催する本格的なコースである。ホンダが西の鈴鹿、東の茂木として運営している。1回30分のスポーツ走行枠があり、技量に合わせ、1周2分30秒以上を初心者、2分30秒未満2分10秒以上を中級、2分10秒未満を上級に分類している。当初はなかなか2

分30秒を切れなかったが、スズキGSX-R1000Rに乗り換えてしばらくすると30秒を切るようになり、最終的に15秒台で走れるようになった。

昨年、市販車1,000ccをやめて、レース参加を念頭に250ccのレース車両のホンダCBR250RRに変更した。1,000ccと250ccでは最高速度が違う。1,000ccでは市販車でも240～250km/時くらいをコースで出せるが、250ccでは180km/時がmaxとなる。250ccデビューは2分37秒から始まり30秒フラットまできたところで、いよいよ今年7月末のレースとなった。スプリントレースに出る技量はないので耐久レースである。1,000ccバイクによる鈴鹿8時間耐久レースは有名であるが、茂木では250ccでの7時間と3時間の二つの耐久レースが行われており、今回はレース初心者として3時間耐久レースに参加した。チームは、走行者が筆者と外科医1名、薬剤師1名の3名、ピットクルーが5名の体制である。チーム名はFast Racing Team Medical、略してFRACTALとした。車両はホンダCBR250RRレース車両である。7時間耐久にはWGP中級クラス世界チャンピオンであった原田哲也氏も参加していた。予選は32チーム中17位、レース結果は22位であった。我々のチームは30分を1ステイメントとして平等に1人2回ずつ乗ることとしていた。他のチームは乗り換えのロスを考えそれより少ない回数としていたので、その分だけ我々は順位を落としてしまっていた。筆者はレースでは第3ステイメントと最終ステイメントを担当した。最後は渾身の力で走り切り、自分のベストラップを更新できた。レースが終了しチェッカーフラッグが振られると、ピットインまでの周回をマッシュャルが色々な旗を振ってくれている。そんな中をゆっくりレースの感動を味わいながら流すのは至極の時間であった。来年もまた、と思ってしまった。

手術で使うべきアドレナリンをこのように消費することについて考えてみた。最近ではアドレナリンが出来るような拡大手術は減り、低侵襲手術が増えているからであろうか。手術も若手のお相手が増え、退屈してしまっているせいであろうか。いずれにしろ、大出血してアドレナリンが出るよりはずっと平和であるが、

(千田雅之)

編集顧問	幕内晴朗	近藤丘							
編集主幹	小野稔	千田雅之							
編集	今中和人	岩崎昭憲	碓氷章彦	奥村明之進	笠原真悟				
	亀井尚	坂本喜三郎	澤芳樹	塩瀬明	志水秀行				
	鈴木弘行	伊達洋至	土田正則	松居喜郎	湊谷謙司				
	宮入剛	宮地鑑	横見瀬裕保	横山齊					
定価 6,050 円 (本体 5,500 円+税 10%)	胸部外科 第76巻 第10号 (9月増刊号) [913冊]				2023年9月10日発行				
	編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号				小立健太				
	印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号				日経印刷株式会社				

発行所 株式会社 南江堂 ☎113-8410 東京都文京区本郷三丁目42番6号
TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 (編集)
03-3811-7239 (営業)
ホームページ <https://www.nankodo.co.jp/>

本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、(株)南江堂が保有します。

【JCOPY】(出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は、著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

広告申込所: ☎113-0033 東京都文京区本郷5-24-6 本郷大原ビル6階 文京メディカル 電話 03-3817-8036